

# 余暇生活についての研究

— 10代の家族旅行の経験と社会人基礎力の意識に関係はあるか —

Study on how to spend leisure time in life: Teenager's travel experience with their family and their consciousness of basic abilities that a full-fledged member of society possesses

七 枝 敏 洋

Toshihiro Nanaeda

キーワード：生活経営学，余暇生活，旅行経験の回数，旅行好き，社会人基礎力

## 1. 研究の背景

日本人の余暇活動に関する将来の参加（公益財団法人日本生産性本部，2013年公表）によると，関心度の第1位が国内旅行（68.2%），第4位が海外旅行（41.1%）であり，旅行に関する関心が高い（注1）。そして，日本人の旅行同行者の推移（2013年）によると第1位「家族・親族」（20.7%）であった（注2）。

社団法人日本旅行業協会が三大都市圏の小中学生を持つ家族の父親に対して行った調査（1997年）によれば，子どもとのコミュニケーションを深める手段として大切に思うことの第3位に「一緒に旅行をする」（44.0%）という調査結果がある（注3）。余暇の過ごし方として家族で国内旅行を行うと，子どもとのコミュニケーションが深まると考えている家族が多い。社団法人日本旅行業協会（2001年公表）は，成人するまでに20回以上，つまり平均して年に1回以上家族旅行に行った人は，「我慢強い」「思いやりがある」「協調性がある」「社会的である」等，周囲とのコミュニケーションや気配りに長けている傾向が強いという調査結果を報告している（注4）。

次に，文系大学・短大生を企業が採用の際，学生が受けた専門教育以上に一般教養，社内のコミュニケーション力，社会人基礎力といった学生個人がもつ資質を重視して採用するという（注6）。社会人基礎力とは，経済産業省が2006年に提唱したもので，学卒者等の若者が企業で仕事をしていくために必要な基礎力として「前に踏み出す力」，「考え抜く力」，「チームで働く力」の3つの能力（12の要素を含む）を挙げ，大学のキャリア教育と連携施策を行っている（注7）。

本論文の目的は，短大生の10代の家族旅行経験と社会人基礎力の意識との間で相関関係を調べ，家族旅行経験が社会人基礎力の全体あるいはその一部の意識と相関関係があるかを明らかにすることである。家族旅行の経験が社会人基礎力の意識と相関関係があるとすれば，家族旅行が若者の社会に踏み出す備えとして意義が高まる。

本論文では短大生に，家族旅行等の経験，社会人基礎力の意識を尋ね，統計的に相関関係を求めた。旅行の経験と社会人基礎力についての意識，コミュニケーション力との間の関係を定量的に分析した点に本研究の意義があると考えられる。

本論文での旅行とは1泊以上の旅行の事である。短大生とは比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の1年生32名と2年生40名である。社会人基礎力について経済産業省は3つの能力分野と12の能力要素を提唱している。本調査での社会人基礎力の質問項目は，経済産業省が挙げる3能力分野12能力要素の合計36要素のうち，各要素3項目のうちの1項目の基礎的項目はそのままに，2つの応用的項目を1つに合成し，合計24項目の質問（表4）で行った。これは回答者の負

担を減らすためである。

10代の短大生の家族旅行等の経験が社会人基礎力などに影響を与えるかどうか検証するために次の仮説の設定をした。

- 仮説 1 10代の家族旅行の回数の多さと短大生の旅行好きとの間に相関関係がある。
- 仮説 2 10代の家族旅行の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。
- 仮説 3 10代の旅行経験の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。
- 仮説 4 短大生の旅行好きと社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。

### 1-1 概念の整理

余暇活動の将来の過ごし方の希望で、家族で余暇を過ごすことが上位に位置付けている。一方、日本政府観光局は近年の若者の旅行離れを指摘している(注8)。日本旅行業協会(2001年)は、1年に1回以上家族旅行を行っている家庭のこどもは「我慢強い」「思いやりがある」「協調性がある」「社会的である」とし、これらは学卒者等に企業が求める社会人基礎力を構成する能力要素と類似点が見られ相関関係があると推測する。10代に旅行好きになった短大生は入学後も旅行をし、旅行経験が少ない短大生よりも社会人基礎力の意識で優位ではないかと考える。

### 1-2 調査の概要

比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科の1年生の社会調査と2年生の生活経営学の授業で、調査の目的を説明し承諾を得た上で、質問票を使って調査を行った。調査の概要は表1の通りである。分析にはIBM SPSS Statisticsバージョン25を使用した。

表1 調査の方法と内容

調査時期	2018年11月
調査対象	比治山大学総合生活デザイン学科1年生32名と2年生40名、合計72名
調査方法	社会調査(1年次科目)と生活経営学(2年次科目)の授業中に質問票による調査
調査内容	1. 性別、年齢、過去5年間の1泊以上の家族旅行の回数。家族、友達、個人での旅行比率、年平均の旅行回数、海外旅行の経験と回数。 2. 旅行は好きか、旅行経験は人格形成に影響があるか、コミュニケーション力・一般常識はある方か(注4)、外国語は好きか、を5:とてもそう思う4・3・2・1:全くそう思わない、とする5段階レコード法で質問し、回答を得た。 3. 社会人基礎力の要素を24の質問項目にし、できる5・4・3・2・1できない、とする選択肢を提示し、回答を得た。

表2 調査対象者の旅行経験・旅行形態・国内旅行の年平均回数と海外旅行の経験回数等についての調査結果

	家族旅行(年平均回数)	帰省(年平均回数)	家族旅行の比率	友達との旅行の比率	個人旅行の比率	国内旅行(年平均回数)	年1回以上旅行する人	年2回以上旅行する人	海外旅行の経験(回数)	海外旅行が1回以上	海外旅行が2回以上
平均値	0.67回	0.44回	42.30%	46.40%	2.00%	1.64回	60.90%	37.50%	0.51回	34.80%	8.30%

注：N = 72 (男性3名、女性69名)、平均年齢は19.3歳。旅行は1泊以上の旅行である。国内旅行は過去5年間の年平均回数。家族旅行の年平均回数の最大値は5.0回、帰省旅行は最大値4.0回、国内旅行は最大値8.0回、これまでの海外旅行の経験回数の最大値は4.0回であった。

出所：筆者が独自に調査し集計した。

表3 調査対象者の旅行経験と自己意識についての調査の結果

	旅行は好き ですか	一般常識はあ る方ですか	旅行経験は人格形 成に影響を与える と思いますか	コミュニケー ション力はある 方ですか	外国語の勉 強は好きで すか	社会人基礎力の意 識についての質問 全体の平均値
平均値	4.42	3.96	3.94	3.58	3.11	3.78
標準偏差	0.830	0.740	1.094	0.989	1.271	0.564

注：N = 72（男性3名，女性69名）。「とてもそう思う5・4・3・2・1全くそう思わない」とする5段階レコード法で回答を得た。

出所：筆者が独自に調査し集計した。

表4 社会人基礎力の要素に関する質問項目（3要素24項目）

1. 自分がやるべきことを理解し、自発的に取り組むことができますか。
2. 自分がやるべきことを理解し、他者に流されず行動できますか。
3. 必要があれば他者を納得（意義・理由・内容）させることができますか。
4. 必要があれば他者を納得させ、力を借りることができますか。
5. 目的を達成するときに、喜びを感じますか。
6. 目的を達成するときに、継続して取り組み続けることができますか。
7. 課題があるとき、他者の意見を積極的に求めていますか。
8. 課題（問題）があるとき、解決に向け情報を集め分析し認識できますか。
9. 課題解決に向け、優先順位をつけ、実現可能な計画を立てられますか。
10. 課題解決に向け、進捗状況に留意して計画を進めることができますか。
11. 常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができますか。
12. 常識にこだわらず、新しいものを生み出すヒントを探していますか。
13. 聞き手が求めている情報を理解できますか。
14. 聞き手に分かるように、話したいことを分かり易く伝えられますか。
15. 相手の意見を、確認や質問をしながら正確に理解できますか。
16. 相手の意見を、相槌や共感等を用い、素直に聞くことができますか。
17. 自分の意見を持ちつつ、他者の良い意見を受け入れることができますか。
18. 自分の意見を持ちつつ、相手の背景や事情を理解することができますか。
19. 自分のできること、他人ができることを的確に判断して行動できますか。
20. 人間関係、多忙さ等配慮し全体が良い方向へ進むように行動できますか。
21. 周囲に迷惑をかけないルール・約束・マナーを理解していますか。
22. 周囲に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができますか。
23. ストレスに対し、自力または他人の力を借りてでも取り除けますか。
24. ストレスに対し、一過性または当然の事と考え一時的に緩和できますか。

出所：筆者が社会人基礎力36要素を24要素に合成した。

(仮説 1 の検討)

仮説 1 10代の家族旅行の回数の多さと短大生の旅行好きとの間に相関関係がある。

表 3 は「旅行は好きですか」と「家族旅行の年平均回数」,「家族旅行の比率」,「年間の旅行回数」,「海外旅行の経験回数」との間で相関分析を行った結果である。「旅行は好きですか」と「家族旅行の年平均回数」とは Pearson の積率相関分析で有意確率  $p > 0.05$  となり実証されなかった。同様に「旅行は好きですか」と「海外旅行の経験回数」との間にも相関は見られず,旅行好きと家族旅行の多さまたは比率,旅行好きと海外旅行の経験回数の間に相関関係は認められなかった。

「旅行は好きですか」と「年 2 回以上旅行する」と回答した学生の間での相関係数は有意確率  $p < 0.05$  となり,年 2.0 回以上旅行する学生は旅行好き,または旅行好きと答えた学生は年 2.0 回以上旅行している相関関係が示された。年 2.0 回以上旅行するから旅行好きになったというより,旅行好きな学生は年 2.0 回以上旅行すると解釈することが自然と考える。

「旅行は好き」と答えた学生は「年 2 回以上旅行している」と相関関係が示されたが「家族旅行の比率」との間では  $-0.270^*$  ( $P > 0.013$  片側)と,負の係数が示された。これはどういうことだろうか。表 2 によると友達との旅行比率が 46.40%を占めていて,「年 2 回以上旅行している」と「友達との旅行比率」で Pearson の相関係数 0.200 ( $p < 0.051$ )とほぼ統計的相関を示した。旅行回数の多い人は家族以外とも旅行をしていて家族旅行の比率が減少していると考えられる。逆に旅行回数の少ない人は家族旅行の占める割合が高いことになる(表 5)。(社)日本旅行業協会によると子供の家族旅行の卒業が 15 歳ぐらいと早まっていると言っており(注 5),「旅行は好き」と答えた学生は,短大に入る前に旅行好きになっていて最近家族以外との旅行をしていると推測できる。

しかしながらこの調査の結果からは,短大生において 10 代の家族旅行の多さが短大生の旅行好きとの相関は統計的な検証に至らず,仮説 1 10 代の家族旅行の回数の多さは短大生の旅行好きと相関関係がある,は実証されなかった。

表 5 短大生における 10 代の家族旅行の回数と旅行好きについての相関分析

		家族旅行(年平均回数)	家族旅行の比率	年 1 回以上旅行する	年 2 回以上旅行する	海外旅行の経験(回数)	海外旅行が 1 回以上	海外旅行が 2 回以上
旅行好きである。	Pearson の相関係数	0.110	-0.270*	0.102	0.257*	0.144	0.213*	0.170
	有意確率(片側)	0.368	0.013	0.204	0.017	0.123	0.043	0.086

注: N = 72。「旅行は好きですか」と「家族旅行」(年平均回数),「家族旅行の比率」,「年間の旅行回数」,「海外旅行の経験回数」との相関分析

出所: 筆者が独自に集計し分析を行った。

(仮説 2 の検討)

仮説 2 10代の家族旅行の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。

表 6 を見ると,「家族旅行」(年平均回数)と「常識にこだわらず,新しいものやアイデアを作り出すことができますか」との間に Pearson の相関係数 0.253 ( $p < 0.05$ , 片側)にて有意な相関関係が見られた(表 6)。家族旅行の多さは視界を広げ,常識にこだわらず,新しいものやアイデアを作り出す,と相関関係があるといえる。仮説 2 10 代の家族旅行の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識との間に相関関係がある,は実証された。

表6 家族旅行の年平均回数と社会人基礎力の項目間で Pearson の相関係数で有意となった関係

		常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出せる
家族旅行（年平均回数）	Pearson の相関係数	0.253*
	有意確率（片側）	0.016

注：N = 72。「とてもそう思う 5・4・3・2・1：全くそう思わない」とする 5 段階レコード法で回答を得た。「常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができますか」で有意な相関がみられた。  
出所：筆者が独自に集計し分析を行った。

（仮説 3 の検討）

仮説 3 10 代の旅行経験の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。

次に 10 代の旅行経験の回数の多さと社会人基礎力の意識の間に相関関係がある、について Pearson の相関係数を求めたところ、「年間の旅行回数」と、「自分がやるべきことを理解し、他者に流されず行動できる」、「課題解決に向け、進捗状況に留意して計画を進めることができる」、「常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができる」との間で  $p < 0.05$ （片側）の有意な相関が示された（表 7）。尚、「海外旅行の経験回数」と「常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができる」の間でも  $p < 0.05$ （片側）の有意な相関が示された。10 代の旅行経験の回数の多い学生は、少ない学生より、自らを独創的で、計画的に問題解決ができ、自立していると考えている。

また、過去 5 年間のうちに年平均 1 回以上の旅行をした人としていない人との間で母平均の分散の差異を求めたところ（表 8）、23:「ストレスに対し、自力または他人の力を借りてでも取り除けますか」で、有意確率 ( $P < 0.024$ ) となった。年平均 1.0 回以上旅行をしている人はストレス耐性が高いと考えている。10 代で 1.0 回以上旅行をする人はしない人より、ストレスを受容し解決力があると考え、旅行経験回数が多いほど、独創性があり計画的に問題解決に向き合い、自立的であると考えられる傾向があると解釈できる。よって、10 代の旅行経験の回数の多さと社会人基礎力の意識との間に相関関係がある、は実証された。

表7 10 代の旅行経験の回数の多さと社会人基礎力の意識で Pearson の相関係数で有意となった質問項目

		常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができますか	課題解決に向け、進捗状況に留意して計画を進めることができますか	自分がやるべきことを理解し、他者に流されず行動できますか
年間の旅行回数(年平均)	Pearson の相関係数	0.252*	0.225*	0.198*
	有意確率（片側）	0.017	0.030	0.049
海外旅行の経験(回数)	Pearson の相関係数	0.207*	0.024	0.140
	有意確率（片側）	0.044	0.423	0.125

注：N = 72, \*, 相関係数は 5%水準で有意（片側）。

出所：筆者が独自に集計し分析を行った。

表8 年平均 1 回以上の旅行をする人としいない人との間で母平均の差異が有意 ( $P < 0.024$ ) で有意となった項目

旅行を年平均 1 回以上旅行する		度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
23:「ストレスに対し、自力または他人の力を借りてでも取り除けますか」	1 回未満	26	3.46	0.989	0.194
	1 回以上	54	3.94	1.017	0.138

注：N = 72。回答は「5：とてもそう思う 4・3・2・1：全くそう思わない」とする 5 段階レコード法で回答を得た。

(仮説 4 の検討)

仮説 4 短大生の旅行好きは社会人基礎力の意識との間に相関関係がある。

短大生の旅行好きは社会人基礎力の意識との間に相関関係がある， について旅行を「苦手・何とも言えない」と「好き・とても好き」との回答を区分してその平均値の集計を行った(表 12)。

母平均の差の検定で，「苦手・何とも言えない」，「好き・とても好き」と，「年 2 回以上旅行する」，「家族旅行の比率」，「旅行経験は人格形成に影響を与える」のそれぞれの間で差異が検証された(表 13)，旅行を「好き・とても好き」と答えた人は年 2.0 回以上旅行をし，旅行は「苦手・何とも言えない」と答えた人よりも家族旅行の比率も高く，旅行経験が人格形成に良いと考えている。

「旅行は好きですか」と社会人基礎力に関する要素 24 項目の相関関係を求めた結果が表 9 と表 10 である。

旅行好きについて，高い数値を回答した人は，企業が学卒採用時に重視する質問項目である「コミュニケーション力に自信がある方ですか」，「一般常識はある方ですか」，「外国語の勉強は好きですか」とのそれぞれの間で  $p < 0.05$  または  $P < 0.01$  (片側) と有意な相関が示された。旅行好きな人は，独創性があり，コミュニケーション力が高く，チーム全体または個人に思いやりがあり，計画的に解決に向きあえる傾向があると考えている。そして，旅行好きな人は企業が学卒採用時に重視するコミュニケーション力，一般常識，外国語力の意識の高さでも相関関係が認められた(表 10)。

表 9 旅行を好きと答えた短大生と社会人基礎力の要素に基づく 24 の質問項目で Pearson の相関係数で有意となった項目

	社会人基礎力に関する質問項目	Pearsonの積率相関係数
1	12:「常識にこだわらず，新しいものを生み出すヒントを探していますか」	0.386**
2	11:「常識にこだわらず，新しいものやアイデアを作り出すことができますか」	0.370**
3	13:「聞き手に分かるように，話したいことを分かり易く伝えられますか」	0.344**
4	19:「自分のできること，他人ができることを的確に判断して行動できますか」	0.340**
5	15:「相手の意見を，相槌や共感等を用い，素直に聞くことができますか」	0.303**
6	17:「自分の意見をもちつつ，他者の良い意見を受け入れることができますか」	0.283**
7	18:「自分の意見をもちつつ，相手の背景や事情を理解することができますか」	0.261*
8	23:「ストレスに対し，自力または他人の力を借りてでも取り除けますか」	0.246*
9	7:「課題解決に向け，優先順位をつけ，実現可能な計画を立てられますか」	0.239*
10	5:「目的を達成するときに，喜びを感じますか」	0.234*
11	21:「周囲に迷惑をかけたとき，適切な行動を取ることができますか」	0.225*
12	20:「人間関係，多忙さ等配慮し全体が良い方向へ進むよう行動できますか」	0.204*

注：N = 72。旅行は好きと答えた短大生と社会人基礎力の要素に基づく 24 の質問項目で Pearson の相関係数で有意となった項目。「5：とてもそう思う 4・3・2・1：全くそう思わない」とする 5 段階レカード法で回答を得た。平均値の差については表 10 を参照されたい。

出所：筆者が独自に集計し分析を行った。

表 9 と表 10 によると旅行を好きと答えた人は，発想力，コミュニケーション力があり，人と共感でき，課題解決，目的達成，人への配慮などに自信がある。よって，10 代の「旅行好き」と社会人基礎力の意識との間に相関関係がある，は実証された。

表 10 旅行を好きですかと企業が学卒採用時に重視するとする項目で Pearson の相関係数で有意となった項目

	社会人基礎力に補足する質問項目	Pearsonの積率相関係数
1	外国語の勉強は好きですか	0.356**
2	社会人基礎力の平均値	0.306**
3	コミュニケーション力はある方ですか	0.332**
4	一般常識はある方ですか	0.244*

注：社会人基礎力の要素に基づく質問項目以外で、企業が学卒採用時に重視する項目を補足的に尋ねた。

出所：筆者が独自に集計し分析を行った。

#### 結論

仮説 1 から 4 までの検討の結果は表 11 の通りである。

表 11 仮説 1 から仮説 4 までの検討のまとめ

仮説 1	10 代の家族旅行の回数の多さと短大生の旅行好きとの間に相関関係がある。	×
仮説 2	10 代の家族旅行の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。	○
仮説 3	10 代の旅行経験の回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識との間に相関関係がある。	○
仮説 4	短大生の旅行好きは社会人基礎力の意識の間に相関関係がある。	○

まず、10 代の家族旅行の回数の多さと短大生の旅行好きとの関係について調査したが、相関関係は得られなかった。しかし、年 2.0 回以上旅行をしている学生と旅行好きの関係は相関関係が見られた。家族旅行について、社団法人日本旅行業協会によると子供の家族旅行の卒業が 15 歳ぐらいと早まっているという(注 5)。当研究の調査の質問は過去 5 年間について尋ねた結果である。旅行好きな短大生は中学生の頃には年 2.0 回以上の旅行をしていて、最近の同行者比率を見ると家族よりも友人とがやや多いことから(表 2)、短大生となるころには家族旅行を卒業しているのではと推察できる。

次に、家族旅行の回数と比率、10 代の旅行経験回数の多さ、旅行は好きかと、24 の社会人基礎力(表 4)に関する質問項目の間で分析した。家族旅行の回数の多さと「常識にこだわらず、新しいものやアイデアを作り出すことができる」の間で相関関係が見られた。10 代の家族旅行の回数の多い学生は、自らを新しいものやアイデアを作り出せると考える傾向がある(表 6)。

続いて、10 代の旅行経験回数の多さと短大生の社会人基礎力の意識の間に相関関係があるについて、10 代の旅行経験の回数の多い学生は、自らを独創的で、計画的に問題解決ができ、自立していると考えられる傾向がある(表 7)。10 代で年平均 1.0 回以上旅行をする人は、ストレス対応力が高いということが示された(表 8)。

短大生の旅行好きは社会人基礎力の意識と相関関係がある、について旅行好きを高い数値で自認した学生は、自らを独創性があり、コミュニケーション力が高く、チームワーク全体と個人に思いやりがあり、計画的に解決に向きあえると考えられる傾向がある。そして、企業が学卒採用時に重視するコミュニケーション力、一般常識、外国語力の意識の高さとも相関関係が認められた。

旅行を「好き・とても好き」と答えた短大生は、旅行を「苦手、何とも言えない」とする短大生よりも 5 つの社会人基礎力に関する質問項目と、企業が学卒採用時に重視する 4 つの項目で自信を持っている(表 12)。また、旅行を「苦手、何とも言えない」とする短大生との間で母平均の分散で明らかな差異が示された(表 13)。

結論として、家族旅行の回数の多さは社会人基礎力の意識に関する質問項目との間で 1 個の相関

関係しか認められなかったが、家族旅行に限定せずに旅行回数との関係で分析を行ったところ、旅行回数の多い学生は、自らを独創的で、計画的に問題解決ができ、自立的であると考えていて、年1.0回以上旅行をしている人はしない人より、ストレス耐性が高いと考えていることが認められた。更に自ら旅行好きと自認する短大生は、社会人基礎力の意識に関する質問項目で12個(表9)、企業が学卒採用時に重視する4項目(表10)でも相関関係が認められた。

家族の生活の余暇の過ごし方として、10代初めに年1.0回以上の家族旅行等の旅行経験で若者が旅行好きになれば、以降も旅行をしストレス耐性、社会人基礎力の要素の創造性、コミュニケーション力、判断力、想像力、問題解決力、マナー意識、達成感で自信が深まると考えられる。

## 後注

(注1) (社)日本旅行業協会「余暇活動に関する参加希望率」

[https://www.jata-net.or.jp/data/stats/2015/pdf/2015\\_sujryoko.pdf](https://www.jata-net.or.jp/data/stats/2015/pdf/2015_sujryoko.pdf) 36ページ。

(注2) (社)日本旅行業協会「旅行同行者の推移」

[https://www.jata-net.or.jp/data/stats/2015/pdf/2015\\_sujryoko.pdf](https://www.jata-net.or.jp/data/stats/2015/pdf/2015_sujryoko.pdf)

<http://www.jata-net.or.jp/tokei/anq/010709kizuna/> 52ページ。

(注3) 宍戸学ほか、「3. 家族旅行」『観光概論』, 第10版, 株式会社JTB総合研究所, 2017年, 83ページ。

(注4) 七枝敏洋, 「観光系学部・学科から観光関連産業への就職についての実証研究—観光関連産業は大学の観光専門教育を重視して学生を採用しているか—」, 比治山大学短期大学部紀要, 第53号, 2018, 15ページ。

(注5) 日本旅行業協会, 「子供が家族旅行を卒業するのは15歳。昔より年齢が低下」『親子の絆と旅行』 <http://www.jata-net.or.jp/tokei/anq/010709kizuna/2018年11月23日アクセス>。

(注6) 児美川孝一郎, 「若者の実態を見直し, 社会の進路も同時に拓くキャリア教育・経済教育」『経済教育ジャーナル』, 第34号, 2015年, 8ページ。

(注7) 経済産業省, 「社会人基礎力」 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> 平成31年1月16日アクセス。

(注8) 日本政府観光局, 「若者旅行の振興」 [http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05\\_000047.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000047.html)

(注9) 経済産業省, 『社会人基礎力に関する研究会—「中間取りまとめ」—平成18年1月20日』, [http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou\\_wg/pdf/001\\_s01\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/001_s01_00.pdf) 2018年11月22日アクセス。

表 12 旅行は好きですかについて、「苦手・何とも言えない」と「好き・とても好き」と答えた短大生の平均値の差

旅行は好きですかの比較		度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
1 泊以上の国内旅行（5年間平均）	苦手・何とも言えない	11	0.764	0.446	0.134
	好き・とても好き	66	1.627	1.366	0.168
家族旅行（年間回数）	苦手・何とも言えない	11	0.364	0.504	0.1521
	好き・とても好き	66	0.644	1.033	0.1272
旅行経験は人格形成に影響を与えると思う	苦手・何とも言えない	11	3.18	1.250	0.377
	好き・とても好き	65	3.91	1.114	0.138
11：「常識にこだわらず，新しいものやアイデアを作り出すことができますか」	苦手・何とも言えない	11	2.55	0.688	0.207
	好き・とても好き	66	3.42	1.024	0.126
12：「常識にこだわらず，新しいものを生み出すヒントを探していますか」	苦手・何とも言えない	11	2.45	0.688	0.207
	好き・とても好き	66	3.27	0.969	0.119
13：「聞き手が求めている情報を理解できますか」	苦手・何とも言えない	11	3.09	0.831	0.251
	好き・とても好き	66	3.61	0.782	0.096
聞き手に分かるように，話したいことを分かり易く伝えられますか	苦手・何とも言えない	11	2.64	0.924	0.279
	好き・とても好き	66	3.47	0.845	0.104
自分のできること，他人ができることを的確に判断して行動できますか	苦手・何とも言えない	11	3.36	0.505	0.152
	好き・とても好き	66	3.86	0.762	0.094
社会人基礎力の平均値	苦手・何とも言えない	11	3.4318	0.425	0.128
	好き・とても好き	66	3.8056	0.588	0.072
コミュニケーション力はある方ですか	苦手・何とも言えない	11	2.91	1.136	0.343
	好き・とても好き	66	3.67	0.900	0.111
一般常識はある方ですか	苦手・何とも言えない	11	3.45	0.522	0.157
	好き・とても好き	66	3.97	0.744	0.092
外国語の勉強は好きですか	苦手・何とも言えない	11	2.36	1.027	0.310
	好き・とても好き	65	3.17	1.193	0.148

注：N = 72。回答は「5：とてもそう思う 4・3・2・1：全くそう思わない」とする5段階レコード法で回答を得た。

出所：筆者が独自に集計し分析を行った。

表 13 旅行を「苦手・何とも言えない」と答えた学生と、「好き・とても好き」と答えた学生との間の差異の検定で有意となった検定項目

		等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
		F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率(両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95%信頼区間	
									下限	上限
旅行 (5 年間 年平均)	(A)	4.220	0.043	-2.068	75	0.042	-0.864	0.418	-1.696	-0.032
	(B)			-4.012	47.831	0.000	-0.864	0.215	-1.296	-0.431
11: 新しいア イデア	(A)	3.112	0.082	-2.738	75	0.008	-0.879	0.321	-1.518	-0.239
	(B)			-3.622	18.369	0.002	-0.879	0.243	-1.388	-0.370
12: 絶えずヒ ントを探す	(A)	1.058	0.307	-2.682	75	0.009	-0.818	0.305	-1.426	-0.210
	(B)			-3.421	17.431	0.003	-0.818	0.239	-1.322	-0.314
13: 聞き手の 情報理解	(A)	1.554	0.216	-2.005	75	0.049	-0.515	0.257	-1.027	-0.003
	(B)			-1.919	13.125	0.077	-0.515	0.268	-1.095	0.064
14: 分かり易 く伝える	(A)	0.071	0.791	-2.988	75	0.004	-0.833	0.279	-1.389	-0.278
	(B)			-2.801	12.942	0.015	-0.833	0.298	-1.476	-0.190
19. 的確な役 割の判断	(A)	0.406	0.526	-2.094	75	0.040	-0.500	0.239	-0.976	-0.024
	(B)			-2.797	18.642	0.012	-0.500	0.179	-0.875	-0.125
社会人基礎力 平均	(A)	1.521	0.221	-2.015	75	0.047	-0.373	0.185	-0.743	-0.004
	(B)			-2.535	17.114	0.021	-0.373	0.147	-0.684	-0.062
コミュニケー ション力	(A)	0.169	0.683	-2.488	75	0.015	-0.758	0.305	-1.364	-0.151
	(B)			-2.104	12.181	0.057	-0.758	0.360	-1.541	0.026
一般常識はあ る方	(A)	0.047	0.829	-2.203	75	0.031	-0.515	0.234	-0.981	-0.049
	(B)			-2.829	17.591	0.011	-0.515	0.182	-0.898	-0.132
外国語は好き ですか	(A)	0.203	0.654	-2.108	74	0.038	-0.806	0.382	-1.567	-0.044
	(B)			-2.347	14.971	0.033	-0.806	0.343	-1.537	-0.074

注:A 等分散性を仮定する, B:等分散性を仮定しない。質問項目は, 旅行の回数, 11:「常識にこだわらず, 新しいものやアイデアを作り出すことができますか」, 12:「常識にこだわらず, 新しいものを生み出すヒントを探していますか」, 13:「聞き手が求めている情報を理解できますか」, 14:「聞き手に分かるように, 話したいことを分かり易く伝えられますか」, 19:「自分のできること, 他人ができることを的確に判断して行動できますか」, 社会人基礎力の平均値, 「コミュニケーション力はある方ですか」, 「一般常識はある方ですか」, 「外国語の勉強は好きですか」, である。

出所:筆者が独自に集計し分析を行った。